学校名 福岡県立稲築志耕館高等学校
指導者 教諭 山田 桃子
実施日時 令和6年11月13日 水曜日3・4限目
実施学級 第1年次3、4組 19名
実施場所 書道教室

1 単元名

漢字の書 楷書創作 ～意図に基づいた表現～

2 単元の設定理由

○単元(教材)観

本単元は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)芸術編 書道Ⅰの内容「A 表現 (2)漢字の書 ウー(イ)古典の線質、字形や構成を生かした表現」、および「アー(イ)意図に基づいた表現」を踏まえて設定したものである。また、共通事項4内容の取扱いにおいて、「A 表現」の「(2)漢字の書」では、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書及び行書の学習を充実させることが大切である」とされており、これまでに楷書の古典(九成宮醴泉銘、雁塔聖教序、顔氏家廟碑、牛橛造像記、鄭義下碑)の臨書学習を通して、古典の線質を理解し、書表現における運動性の背景や、それぞれの用筆・運筆を学んでいる。同年12月の総合学科発表会への作品展示を目指し、楷書創作において、古典の線質や字形、構成を活かし、構想を工夫しながら意図に基づいた表現ができるようになることをねらいとして本単元を設定した。

○生徒観

本学級は、書道、音楽、美術の選択で書道Ⅰを選択した1年次3、4組19名である。日頃書く文字を綺麗にしたいという理由で選択した生徒も多く、1学期の楷書古典の学習では、表現や書風の違いを感じ取ることに積極的であり、特に筆を用いた表現活動に意欲的に取り組んでいる。書写と書道の違いについて、書道は個性も表現できるものと理解している生徒もいるが、表現活動を通して技能の習得ができていない生徒は少ない。また、相互鑑賞の際、気づいた改善点を既習の書道用語を用いて相手へ伝えることに苦手意識を持っている生徒も多い。そのため今回は、伝えたいイメージを具体化し、表現を工夫するポイントを明確にすることで、より分析的な鑑賞が行えるようにさせたい。

○指導観

本単元では、生徒自身が設定した二字熟語を題材とし、楷書の用筆・運筆を用いて、墨の潤渴、文字の大小・太細をもとに表現の構想を工夫し表現することをねらいとしている。

単元のはじめに、まずは1学期に学習した楷書古典の用筆・運筆と文字から感じる印象を復習し、設定した二字のイメージを具体化し、題材に合う楷書古典を選択し練習させる。創作について説明し、表現を工夫させるにあたり、自身の制作意図を筆で表すには、「表現の工夫ポイント」をどう活用するのか構想を立てさせ、相互鑑賞を通して再度構想を練り直す時間を設ける。相互鑑賞では、鑑賞の観点ごとにグループを組み直すことで、着目点を明確にし、より分析的な鑑賞が行えるよう工夫する。中間作品から伝えたいイメージを感じ取ることができるか、書道用語を用いて適切に伝え合い、自身の作品にも生かせる箇所を探ることができるよう指導する。表現と鑑賞活動の両方を通して、表現の幅広さを生徒が実感できるよう、工夫する要素を視覚的に提示し、思考させ、相互鑑賞に活かせるように指導していく。

3 単元の目標

(1)「知識及び技能」に関する目標

○知識

- ・楷書の用筆・運筆をもとにした表現について理解する。
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。

○技能

- ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を、古典の線質・字形や構成を生かした表現の技能を身に付ける。

(2)「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、自身の意図に基づいた表現について構想する。
- ・作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉える。

(3)「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・表現の構想から完成に至るまで、自らの学習を調整しながら粘り強く主体的に取り組む。
- ・相手の作品の高さを感じ、適切な言葉で伝え、鑑賞の活動に主体的に取り組む。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①楷書の用筆・運筆をもとにした表現について理解している。 (知表)	①古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、自身の意図に基づいた表現について構想している。 (思表)	①表現の構想から完成に至るまで、自らの学習を調整しながら粘り強く主体的に取り組もうとしている。 (態表)
②線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 (知鑑)	②作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。 (思鑑)	②相手の作品の高さを感じ、適切な言葉で伝え、鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 (態鑑)
③古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を、古典の線質・字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 (技能)		

5 単元の指導と評価の計画（評価規準 ●:指導に生かす評価、○:記録に残す評価）

次	配当時間	・学習活動	評価規準			評価方法
			知	思	態	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書と創作の違いについて理解する。 ・総合学科発表会での作品展示に向けて、書きたい二字熟語を選び、言葉の意味や、文字に対する印象を具体化する。 				
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した楷書古典の特徴や、その古典から感じる印象について振り返り、選んだ二字熟語の文字に合う楷書古典を決める。 ・クロームブックを用いて、選んだ楷書古典の用筆・運筆を確認し、半紙に1文字ずつ練習する。(練習→本時の清書) 	①			学習プリント① 半紙作品 様相観察
二 (本時)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元で学習した表現を参考に、創作に適した「表現の工夫ポイント」をまとめる。 ・自身の表現意図をもとに、「表現の工夫ポイント(墨の潤濁、文字の大小・線の太細)」、二字の配置を工夫し、学習プリントに構想を立てる。 ・半切 1/2 サイズの紙に練習し、中間作品①を制作する。 ・相互鑑賞に向け、表現意図と工夫点を再確認する。 		①	①	学習プリント② 様相観察
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・観点ごと(①古典の特徴 ②「表現の工夫ポイント」)にグループを組み直し、相互鑑賞を行う。自分の作品を紹介し、相手の作品の良い点、アドバイスを付箋に書き、相手の中間作品①に貼る。 ・中間鑑賞でもらった意見をもとに、中間作品②(本時の清書)を制作する。 ・中間自己評価として、中間作品①、②、他者からもらった意見をもとに、次回の作品完成に向け構想を再考する。 		②		鑑賞付箋 ① 様相観察 ① 学習プリント②
三	2	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、表現意図と表現の工夫ポイントについて再度確認する。 ・他者の表現も参考にしながら、清書作品を完成させる。 ・押印のルールを理解し、作品の押印位置を決め押印する。 ・制作意図、表現の工夫ポイントをもとに班で作品を紹介する。 ・班のメンバーで作品について意見交換を行う。 	③			清書作品 様相観察 学習プリント③ 様相観察

6 本時(第二次)

(1) 本時の指導目標

○【思考力、判断力、表現力等】

- ・相互鑑賞において、他者の表現意図を理解し、「表現の工夫のポイント」を参考に鑑賞し、他者に伝えることができる。
- ・選んだ古典の用筆・運筆をもとに、自身の表現意図に基づき、表現を構想し工夫している。

○【学びに向かう力、人間性等】

- ・表現意図と「表現の工夫ポイント」の関連を意識し、他者の意見も参考にしながら意欲的に取り組んでいる。

(2) 本時の手立て

- ・既習の古典に基づく作品制作に必要な「表現の工夫ポイント」に気づかせる。
- ・観点ごとに鑑賞グループを分け、着目点を明確にすることで、多くの作品から表現を学べる機会とする。
- ・作品紹介の例文提示や、付箋を用いての相互鑑賞を行い、根拠を持って想いを文章化し、他者に伝えられるよう支援する。

(3) 教材

教師:教科書(「書 I」光村図書)、学習プリント、PC、プロジェクター、書道道具

生徒:教科書(「書 I」光村図書)、学習プリント、ファイル、付箋、書道道具

(4)学習の展開

	・学習活動	時間 配当	学習 形態	指導上の留意点	評価 規準
導入	・前時の復習として、創作する二字熟語と、伝えたい印象について再確認する。	4	一斉 個人	・半切 1/2 サイズ5枚を事前に机の中に準備しておく。 ・前時の学習プリント①と作品をもとに、表現意図を再確認させる。	
	・半切 1/2サイズに、 1枚 試し書きし、本時の目標を確認する。	5	個人	・作品右上に「た」と書かせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 【本時の目標】 根拠を持って、自分の作品紹介や他者へのアドバイスができるようになるう！ </div>					
展開 1	・試し書きから、伝えたい印象が感じ取れるか確認する。 ・二字作品を制作するにあたり、行書の表現を復習する。 ・「表現の工夫ポイント」をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【表現の工夫ポイント】</p> <p>① 墨の潤濁</p> <p>② 文字の大小・線の太細</p> </div>	7	一斉	・二字作品を書く上で、既習の古典で学習した、表現の変化のつけ方が、表現意図を筆で表す時に効果的であることをパワーポイントを用いて確認する。 ・潤濁の変化には、墨量に関係しており、文字の大小については、文字のサイズの組み合わせが数通りあることを伝え、表現意図によって選択するよう促す。	
	・「表現の工夫ポイント」、文字の配置について、どう工夫するのかプリントに構想を立てる。	13	個人	・用紙の向き、文字の配置の仕方についても説明し、表現意図をもとに工夫することで、より表現の幅が広がることを確認する。	
	・構想をもとに半切 1/2サイズに二字熟語を 2枚 練習し、中間作品①を制作する。	10	個人	・試し書きでは、紙面に文字を入れるだけになりがちであるため、墨の潤濁や文字の大小を、思い切って大胆に表現するように声掛けを行う。 ・作品表下に、鉛筆で氏名を記入させる。	
	・相互鑑賞に向け、自分の作品について表現意図、工夫点が伝えられるようプリントにまとめる。	11	個人	・4限目の相互鑑賞に向け、班分けされた席に着席するよう伝える。	

展開2	<p>4限開始</p> <p>【相互鑑賞グループ】</p> <p>① 古典の特徴</p> <p>② 「表現の工夫ポイント」</p> <p>・班員に表現意図を伝え、試し書きと中間作品①を見せ、良い点と改善点を付箋に書き、説明してもらう。</p> <p>・アドバイスを参考に、2枚清書し、良い方を中間作品②とする。</p> <p>・中間作品①、中間作品②を見比べ、相互鑑賞により伝えたい印象の表現がどう変わったのか、構想した工夫ポイントを筆で表現できているのか自己評価しプリントにまとめる。</p>	17	班	<p>・着目点がわかりやすいよう、班のメンバーを観点ごと(①古典の特徴→②「表現の工夫ポイント」)に変え、相互鑑賞を行う。</p> <p>・班員からのアドバイスを参考にしながらも、感じ方の多様性について確認する。</p> <p>・他者へ伝える際の言葉について、受け取り側の立場で考え、表現が適切かどうか判断するよう促す。</p>	
		10	個人	<p>・中間作品①に貼られたアドバイスの付箋を見ながら、中間作品②(本時の清書)を完成させる。</p> <p>・作品表下に「4桁番号、氏名」を記入させる。</p>	<p>態表表現の構想から完成に至るまで、自らの学習を調整しながら粘り強く主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「様相観察」</p>
		5	個人	<p>・中間作品①と中間作品②を見比べ、相互鑑賞により、作品がどう成長したのかについて前向きにまとめるよう伝える。</p>	<p>思表古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成と、自身の意図に基づいた表現について構想している。</p> <p>「学習プリント②」</p>
まとめ	<p>・用具・用材等を片付ける。</p>	15	個人	<p>・中間作品①、中間作品②は机上に置かせ、プリントのみ回収する。</p>	
	<p>・次回の授業について確認する。</p>	3	一斉		